

# 編集室

\* 編集特別幹事として1年と少しが過ぎた。記事企画提案や小特集企画の取りまとめなどを経験して、会誌編集の大変さを改めて実感しているところである。しかし、数多くの記事を企画提案され、執筆の内諾を得る交渉を行い、著者の執筆後は内容をチェックされる編集委員の皆様の方が大変であることは想像に難くない。

\* 記事を担当される編集委員の業務の一つに、会誌目次に掲載する「キャッチフレーズ」の作成がある。この編集室をお読みの会員諸氏にはここで本号目次を改めて御覧頂き、各記事の題名の下に、若干小さめの文字で記事を紹介するキャッチフレーズが掲載されていることを御確認頂ければと思う。このキャッチフレーズは著者が考案・付記されているのではなく、記事原稿を最初に読む担当編集委員が作成する。すなわち、編集委員のコピーライターとしてのセンスが問われる場面である。編集特別幹事4名は各号の目次を分担してチェックし、場合によっては再度の検討を求められることもある。先日も目を通す機会があったが、改めてキャッチフレーズの難しさを感じた次第である。

\* キャッチフレーズ掲載の目的は、本会会員の専門分野が幅広く分布していることから、必ずしも専門ではない内容の会誌記事に興味を持ち、読んで頂くきっかけの一助となることである。このため、記事題名の繰返しや記事題名から容易に推測可能な文・句では無意味であるのは当然だが、一方で的外すことは目的を逸脱してしまう。ましてや、一部マスコミにあるように刺激的だが的を射ているとは思えないものは、会誌記事の信頼性を低下させることになる。やはりここは、担当委員が最初に記事を読む幸運を感じながらじっくりと記事内容を確認した上で、著者の思いを多くの会員に的確に伝えるキャッチフレーズを作成して頂くことが王道であろう。

\* 本号では小特集として「ビジョンコンピューティング」における確率的情報処理の展開が掲載されている。本号のキャッチフレーズを事前に見る機会がなかったので、目次を見るのを楽しみにしているところである。

\* さて、会員の皆さんは会誌各号から1~2件の「話題の記事」が選定されているのを御存じだろうか。「話題の記事」は編集特別幹事が選定し、学会WebページにてPDF形式で一般公開されている。印刷媒体が主である会誌の電子媒体は、CiNii（サイニイ、国立情報学研究所論文情報ナビゲータ）にて刊行後1年経過してから有料公開しているものがある。アーカイブとしての性格が強いCiNiiに比べると、「話題の記事」は刊行後1~2か月程度で公開されていることから、ホットトピックに関する記事や会員以外の方々にも強い関心を持って頂けそうな話題性がある記事が選ばれている傾向が強いと感じている。

\* 本年5月号の「話題の記事」は自身が担当する講義に関連する内容だったので、学生に記事を読ませてレポートを書かせたところである。「話題の記事」のように良質なコンテンツが豊富になり、多くの講義に活用され、学生がWeb上での高品質なコンテンツを見極めるきっかけになればと期待している。

\* しかし、現在の「話題の記事」のWebページは、掲載年月、記事題名、PDFファイルへのリンクのみとシンプルに作られている。そのせいか記事題名の一部で検索しても、検索結果の上位になかなか挙がらない。前述の「キャッチフレーズ」くらいあるとヒット率も向上し、かつ、PDFファイルをダウンロードしなくても内容を判断する手掛かりが増えていいのになあと思うこともある。

\* 「電子情報通信」を冠する本会の情報発信が少なくとも他学会の後塵を拝してはならないと思うし、会員層の拡大にもつながる契機になるべきだとも思う。本会の存在感が「話題の記事」を通じて高まることを願っているが、まずは会員の皆様には興味ある記事の有無を確認し、積極的に御活用頂ければと思う。

\* 「話題の記事」は、本会のトップページ→「機関誌と出版物」→「会誌」→「話題の記事の紹介」をたどるか、あるいは以下のURLで直接アクセス可能である。

<http://www.ieice.org/jpn/books/kaishikiji/index.html>

(編集特別幹事 牧野光則)